

2025年5月4日 礼拝説教要旨
 ヨハネによる福音書講解説教35「永遠の命を信ず」
 出エジプト16:1～5、ヨハネ6:41～51

永遠の命とは、不老不死のようなものではありません。罪を赦され、神さまとの関係が回復されて、永遠の神さまの御国に生きることです。それはこの地上の命が尽きたらおしまいということではなく、死を突き抜けて、なお神さまとつながりは続きます。ハイデルベルク信仰問答でも、永遠の命についての箇条で「わたしが今、永遠の喜びの始まりを感じているように、この生涯の後には、目が見もせず耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかったような完全な祝福を受け、神を永遠にほめたたえるようになる」(問58)と告白します。その完全な祝福、永遠の命に向かって、わたしたちは生きています。そのときに、わたしたちの日々の生活、具体的な仕事や学びにも目的や意味を見出すことができるようになるでしょう。

ところが、この生きる目的を見失う。神さまから離れたままになっているときに、わたしたちは何のために生きているのか分からなくなってしまう。生きる目的を見失うのです。だから生きることに対して自暴自棄になる。そのように目的を見失った状態がよく表されているのはこのユダヤ人の姿です。「ユダヤ人たちは、イエスが『わたしは天から降って来たパンである』と言われたので、イエスのことでつぶやき始め、こう言った。『これはヨセフの息子のイエスではないか。我々はその父も母も知っている。どうして今、『わたしは天から降って来た』などと言うのか』(41～42節)ここで「つぶやく」と訳されている言葉(ゴッギゾウ)は、今日合わせて読みました出エジプト記でイスラエルの人々がモーセとアロンに向かって不平を述べ立てたという部分に使われています。イスラエルの人々は、自分たちがエジプトの奴隸生活から救われてきたことを忘れて、まだエジプトにいたときの方がよかつた、あのときは肉のたくさん入った鍋の前に座り、パンを腹いっぱい食べられたと不平を言います。目の前のパンのことで、神さまの救いを見失う。自分たちが生きる目的、約束の地を見失う。目の前の現実に心奪われ、そこに不平、つぶやきが起こるのです。

このことは決して他人事ではありません。わたしたちも気がつけば不平や不満を募らせていることがあります。生きていれば辛いことや悲しいことがたくさんあります。どうして自分だけが苦しむのか。でもその不満を家族や周りの人にぶつけても何の解決にもなりません。そのつぶやき、不満の原因は不信仰に他なりません。神さまの救いを見失っているから、ただ見える現実だけを見てつぶやくのです。神さまを信じて、前を向いて、永遠の命に向かって生きるのではなく、あの時は良かったと過去に縛られ、罪に逆戻りしようとする。それではわたしたちの人生は一向に前に進まないでしょう。

けれども、神さまはそのような堂々巡りの人生からわたしたちを救い出して、永遠の命という目的に向かって生きるように導いてくださいます。「イエスは答えて言われた。『つぶやき合うのはやめなさい。わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない』(43～44節)「父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない」とあります。ここはとても重要なところです。わたしたちは自分の力で信じているのではない。自分で聖書を学んで救いに到達していくではありません。神さまが引き寄せてくださるからこそ信仰は可能なのです。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」(15:16)とあるように、救いは神さまの一方

的な働きかけによります。わたしたちが何をするとか、その功績の入り込む余地はない。ただわたしたちをご自身のもとに引き寄せてくださる神さまの恵みしかないので。

ある神学者は、この「引き寄せる」（ヘルコー）という言葉には「抵抗」という意味合いを含むことを指摘しております。例えば、ヨハネ福音書の最後でよみがえりのイエスさまが弟子たちに現れるところがあります。弟子たちが漁をしても魚が獲れないでいると、イエスさまが舟の右側に網を打つように言われる。その通りにすると多くの魚がかかり、「もはや網を引き上げることができなかった」（21：6）と言います。この「引き上げる」と訳された言葉が今日のところで「引き寄せる」と訳されています。重くて引き上げられない。また使徒言行録ではパウロとシラスが捕らえられて役人の前に引き立てられたときにもこの言葉が使われています。抵抗する人間を無理やり引きずって行くということです。そのように人間は神さまの引き寄せに對して抵抗します。それは罪があるからです。あの時は良かったと罪の中に逆戻りしようとする。それでも神さまはわたしたちを引き寄せます。

それは強引に、無理やりでしょうか。アウグスティヌスは「心は愛によってひかれる」と言います。またカルヴァンは「その引き寄せるやり方は、人々が外的的な力によって強制させるといった暴力的なものではない。むしろそれは、効果的な聖霊の働きであり、それによって以前には望まなかつた人々が、進んで望むようにされるのである」と述べています。自ら進んで引き寄せられて行く。聖霊がそのようにわたしたちを導きます。

そのためにイエスさまはまことの人となられ、最後は十字架で死んでくださったのではないでしょうか。抵抗するわたしたちのところに来てくださった。そしてそのわたしたちのために死んでくださった。その抵抗の只中からわたしたちを引き上げ、神さまのところに引き寄せるためです。そのためにご自身の命を命のパンとして与え尽くされました。そしてわたしたちを神さまとこに引き寄せてくださるためによみがえられました。洗礼を受けているわたしたちはすでに神さまのところに、永遠の命に向かって引き寄せられています。だからもうつぶやき合う人生はやめよとイエスさまはおっしゃるのです。不平を言っても始まりません。過去の思い出に浸っても意味はないのです。神さまがわたしたちを引き寄せてくださいます。前を向いて、永遠の命を目指して進みましょう。

天の父よ。つぶやき合う人生と決別するために、そこからご自身のところに引き寄せてくださるために、あなたは尊い独り子をくださいました。イエスさまという命のパンを信じて受けることができますように。わたしたちを引き寄せてくださる神さまの御手にすべてを委ねることができますように。主の御名によって祈ります。アーメン。